

語彙面からの日英語比較

ー 昆虫・魚介類・動物・鳥に関する語彙を中心にして ー

矢 田 裕 士

序 論

語彙はいづれの言語においても当該文化の一部分として存在し、長い年月を経て、ある種のイメージを形成する。言語が異なれば、同一あるいは類似の対象物を表す語彙の持つイメージも異なることが多い。

日英語で語のイメージが著しく異なる例をいくつか挙げると、「八重歯」は日本では「可愛い、愛らしい」というイメージを伴うことがあるが、英語での相当語 *snaggletooth* は *vampire* すなわち吸血鬼ドラキュラを連想させる悪いイメージが伴うようである。同様な例として「鯉」と *carp* が挙げられる。「鯉」は日本文化では男子の節句に飾られたりして、縁起の良い魚として愛でられているが、英語文化圏では *A carp. It's a dirty muddy fish.* としてむしろ悪いイメージを伴う魚である。また両言語の意義の中心的な部分は同じでも、一部ずれが顕著な例も数多くある。英語の *relative* という語はふつう日本語では親戚・親類と訳されているが、英語の意味概念には *If someone is your relative, they belong to the same family as you.* [COBUILD] の定義に見られるように「妻・夫・兄弟姉妹・子供」などの「家族」が含まれている。これに対して日本語の「親類・親戚」という語と「家族」という語は互いに他方を含むという関係にはない。英語では *One's parents and one's children are one's nearest relatives.*

「家族が最も近い relative」なのである。もう一例を挙げると、英語の lap は身体部分的には、椅子などに座った時にできる太股の膝上の平になった部分を指し、立ったままの状態では lap はできないことが次の定義文や例文から明らかである。Your lap is the flat, slightly hollow area that is formed by your thighs when you are sitting down. [COBUILD]
／ Their youngest child was asleep in her lap. ／ The man was sitting in a chair with his hat on his lap. 日本語の膝は立った状態でも、座った状態でも存在しうる膝小僧から腹の付け根に到る股の前面部分である。その他、語義に 1 対 1 の対応関係が見られない例としては「brother／sister と兄弟・姉妹」「rice と米、稲、米、飯、ご飯、めし、ライス」「hot water と湯」など枚挙にいとまない。また、このような語義のずれを、諺のレベルでも観察することができる。A rolling stone gathers no moss. という英語の諺に対する訳として通例「転石苔むさず」がつけられているが、その意味は「転職しては大成しない」の意味と理解されることが多い。その理由は、日本文化では「君が代」の歌詞に代表されるように、また苔寺の苔を鑑賞するように苔は非常に良いイメージでとらえられており、苔がむすことは大変価値のあることなのである。一方、西洋においては苔を珍重したり、価値のあるものとみなす風土はない。むしろ苔は汚らしいものとのイメージが優位である。従って、最近のアメリカでは、この諺に対するイメージは、同じ職場にいては苔がむしてしまうほど、うだつのあがらない人物というとらえかたをする。「石の上にも三年」という諺とは正反対のイメージで転職してより生きがいのある職場を見つけることが最近のアメリカ人の発想なのである。

英語語彙には肉食文化・牧畜民族の生活・文化を反映して、動物を表すイディオムや慣用表現が非常に豊富である。同一種を表現する場合でも、動物の性別・成長の段階などで語彙が多様に異なる場合もある。一例を挙げると、pig は「豚」に対応する最も汎用性のある語であるが、成長した雄豚には hog が、また成長した雌豚は sow、同じ雌豚でも子を産んだこ

とのない雌豚の場合には *gilt* を使用する。またやや古風な文語では *swine* を使うこともある。また親と子で語彙が異なる例としては *cat, kitten*; *dog, puppy*; *horse, colt*; *bull/cow, calf* など多種多様である。その結果、英語表現には動物を使用した比喩表現が多く登場する。反面、日本では農耕文化に由来する昆虫に関する語彙や植物に関する語彙が非常に豊富である。本論では英語語彙を昆虫・魚介類・動物・鳥に限定して、日英語比較の観点から当該語彙がどのようなイメージで使用され、その語彙を含むどのようなイディオム、成句が形成されているかについて論じてみたい。

1. 昆虫

日本人は「昆虫」というと「カブト虫、バッタ、トンボ、蟬」などを連想する。たいていの子供が夏休みには昆虫採集をして、昆虫の種類や名称に慣れ親しむことが一般的である。従って昆虫に対して抱くイメージは必ずしも悪くはなく、むしろ懐かしい子供時代を思い出す語彙でさえある。英米人は「昆虫記」の作者 *Jean Henri Fabre* のような昆虫学者を除いては、*insects* から連想するものは *flea, fly, ant* など汚いイメージであり、日本のデパートで「カブト虫や鈴虫」などの昆虫が販売されていることに大変な文化的ショックを受けるようである。秋の夜長に虫の音を楽しんだり、家庭に虫籠を置いて昆虫を飼うなどということは考えられないことのようなのである。まして日本人が鈴虫が「リーン・リーン」、松虫が「チンチロリン」、くつわ虫が「ガチャガチャ」というふうに個々別々の虫の鳴き方まで聞き分けることができるということは、日常生活では意識してそれぞれの虫を識別せずに、ほとんど全ての虫、昆虫などをひっくるめて *bug* で表現してしまう英米人にはとっては驚異的なことと写るのである。

1. GRASSHOPPER; 日本のような農耕文化国では、稲作農業で「バッタ」と稲の害虫となる「稲子」を厳密に区別するが、英語ではイナゴ、バッタ、キリギリスの総称である。ただし英語文化圏では群れをなし

移動する grasshopper を locust という。

be knee-high to a grasshopper (おどけて) (人が) 年端もいかない
to swarm like locusts 群がる

2. CATERPILLAR; 毛虫、いも虫、青虫などの総称である。

caterpillar tread [track] 無限軌道の踏板

3. WORM; うじ虫、ミミズなどのように羽がなく地面を這う虫などの総称である。語源的にも「地を這う蛇・虫」が原義である。

Even a worm will turn. 一寸の虫にも五分の魂

be a worm 元気がない / the worm of conscience 良心の痛み

a worm's eye view 下・裏から物事を見る

have a worm in one's tongue 難くせをつける

a worm in the apple [bud] きず、欠点

worm one's way out of ~ ~からはいだす

to worm out information 卑怯な手を使って秘密をかぎ出す

4. CICADA; 蟬、日本では蟬しぐれは夏の風物詩であり季語にもなっているが、欧米では一般の人は cicada はただうるさい昆虫程度にしか関心を寄せず、日常的に使う語彙ではない。また、アメリカでは cicada を locust ということもある。

5. BUTTERFLY; 蝶、蝶は日本では春ののどかさや「蝶よ、花よ」と優雅さをイメージさせる語であるが、英語では「せわしさ、落ち着きのなさ」などを連想させる虫である。「butter のようなものを排せつする飛ぶ虫」が原義であるのは面白い。

break a [the] butterfly on a wheel 必要以上に精を出す

as merry as a butterfly [lark, cricket] 陽気で移り気な

have butterflies in one's stomach [tummy] どきどきする、そわそわして落ち着かない。

6. FLY; 蠅、日本語では蠅の代表的イメージは「不潔」であり「人に嫌われ、うるさがれる人」の意味もある。英語では不潔のイメージの他

に「欺き」の象徴ととらえることもある。

cast a fly 蚊針で釣りをする

a fly on the wall 人に気づかれずに観察している人

a fly in the ointment 玉にきず、興ざめ、(楽しみの)ぶちこわし

a fly in amber 琥珀の中の化石バエ (原形のまま残る遺物)

a fly on the [coach-]wheel 自惚れ者

break a fly on the wheel おおげさな手段をとる

Don't let flies stick to your heels. ぐずぐずするな

like flies たくさん / die like flies 蠅のようにばたばた死ぬ

rise to the fly だまされる、引っかかる (魚が毛針を食べようとして釣られることから)

not harm [hurt] a fly 虫も殺さない、やさしい性格をしている

There are [is] no flies on [in] ~ ~ 抜け目がない (元気な馬は蠅を体にとまらせないことから)

7. BEE; 蜂、広義に蜂だが、養蜂が盛んな西欧では hornet スズメ蜂, wasp ジガ蜂などと区別して honeybee 蜜蜂や bumblebee マルハナ蜂を指す。蜜蜂の雄については drone が用いられる。蜂については日英両語のイメージは働き蜂に代表されるように「働き者、忙しい」であり、また「泣きっ面に蜂」「蜂の巣をつついたように」の語句にあるように「攻撃、多忙」である。bee には地域活動・仕事・競技などの会、集まりの意味もある。

as busy as a bee 非常に忙しい = the birds and the bees

bees and honey お金 / be the bee's knees とびきり優秀である

a beehive of activity 活気のある場所

a sewing bee 裁縫の会 / a spelling bee 綴字の競技会

put the bee on ~ に金を恵んでもらおうとする

to make a beeline for ~ ~ に向けて一直線に進む

have a bee in one's bonnet 妙な考えにとりつかれる、気が変になっている

waspish 怒りっぽい

mad as a hornet かんかんに怒る

stir up a hornet's nest 大勢の人を怒らせる

8. ANT; 蟻、蟻はイソップのアリとギリギリスの寓話にもあるように「秩序だった行動と勤勉さ」のイメージを持つ。日本語でも「蟻の穴から堤も崩れる」「蟻の甘きにつくが如し」「蟻の思いも天に届く」「蟻の熊野参り」「蟻の這い出る隙もない」などの諺に見られるごとく働き者、小さきものとのイメージが強い。

have ants in one's pants 落ち着きがない

antsy ～したくてうずうずする、そわそわした

look like an ant ごく小さい

9. FLEA; 蚤、日本語では「蚤の夫婦」「蚤の息も天に上がる」「蚤の金玉」などの諺に見られるようにごく小さき者（物）の意で使われている。西洋では「とるに足らぬ者・事の象徴」とのイメージがある。

a flea in one's nose (米俗) 変った考え

a (mere) flea bite 比較的少額の金

with a flea in one's ear 苦言、いやみ（耳に蚤の入った犬が暴れ回ることから）

(as) fit as a flea 元気で、ぴんぴんして

flea market のみの市

10. SLUG; なめくじ、日本語では苦手に出会ってどうにもならないたとえとして「なめくじに塩」という諺がある程度であるが、英語では不活発の代名詞みたいな生き物であり、sluggard 「怠け者、のらくら者」slugabed 「朝寝坊」という派生語や slug 「怠ける、（時間）をぐずぐず過ごす」という動詞も存在する。

feel sluggish だれる

11. SNAIL; かたつむり、日英語にさしたるイメージの違いはない。

at a snail's pace 非常にゆっくりと

slow as a snail かたつむりのようにおそい

12. LEECH; ヒル、bloodsuckerとも呼ばれ、どん欲・放縦の象徴である。
stick [clung] like a leech ヒルのように吸いついて離れない

13. SPIDER; 蜘蛛、洋の東西を問わず、蜘蛛はあまり良いイメージを伴う昆虫ではないが、西洋では「悪意・絶望・希望」などの象徴となっている。

a spider and a fly 人をうまく丸め込む者と丸め込まれる者

blow the cobwebs away 気分をすっきりさせる、もやもやをとる

Come into my parlor, said the spider to the fly. 人をうまく誘惑して危険に陥れる

II. 魚介類

英語の fish は魚・魚肉の他、shellfish, starfish などのように複合語で魚介類・水産動物をも指す。英米人の食する代表的な魚は flounder; sole; halibut; salmon; trout; pike; crab; shrimp; prawn; lobster; scampi; perch; herring などであり、貝類は oyster; scallop; abalone など食する魚・貝類の種類は日本と比べると限られている。日本のような魚の食文化国では海や川・湖・沼に住むものは「うお」、料理されたものを「さかな（酒の肴）」などと区別することもある。魚も肴も同語源で酒を飲む時に添えて食された物が魚（酒菜）であった。現代においてもまだ、日本人は raw fish を scale（鱗）をつけたまま食べると思っている外国人がいる。日本語では鮫肌、鯖折り、鰯雲、魚心あれば水心、鰻の寝床、水魚の交わり、魚の釜中に遊ぶが如し、魚の水に離れた様、魚の目に水見えず、魚は江湖に相忘る、魚は鯛、魚の水を得たる如し、魚の木に登るが如し、魚尺は取らぬもの、魚を得て釜を忘る、魚を見て網を結ぶ、魚を争う者は濡る、魚を猫に預ける、など諺・成句の例には枚挙にいとまがない。これに比して、英語には個々の魚名を含む慣用句は日本語ほど多くは見あたらないが、fish を含む慣用句は次に挙げるようにいくつかはある。 cold

fish「冷徹な人」；a big fish in a little pond「限られて小範囲でのみ勢力のある人」；a pretty kettle of fish「てんやわんや、手に負えないこと」；(as) drunk as a fish「ひどく酔って」；(as) dumb as a fish「とても馬鹿な」；cry stinking fish「自分の仕事（努力・家族など）を自分でけなす」；drink like a fish「大酒を飲む」；feed the fishes「溺死する」「船酔いになる」；have other [bigger] fish to fry「他にせねばならぬ重要な仕事がある」；land one's fish「目的物を手に入れる」；like a fish out of water「場違いな」；make fish of one and flesh of another「2人を不当に差別する」；neither fish, flesh, fowl, nor good red herring「得体の知れない物」；play a fish「釣竿にかかった魚を疲れさせる」；fish in troubled [muddy] waters「混乱に乗じて得をする、漁夫の利を得る」また fishy「（魚の生臭さから）話などが疑わしい」という形容詞もある(smell fishy うさんくさい、まゆつばである)。日本語と類似の表現には like a fish takes to water「（水を得た魚のように）ごく自然に」がある。

1. CUTTLEFISH/SQUID; いか、日本ではイカ刺などは上戸の好物であるが、西洋では、海中から美女をさらいに来る悪魔の化身と見なされて不気味な物で、食用にすることはほとんどありえない。ただし、cuttlefish コウイカに対して squid ヤリイカは輪切りにしてフライにしたものを squid ring として食することはある。
2. OCTOPUS; 蛸、日本では刺身にしたり正月の食品には欠かせないほどに馴染みのある魚類であるが、イカと同様に英米では devilfish とも言い、人の血を吸う悪魔を連想し、あまり食用にしない。従って慣用句の類もない。日本語では蛸部屋、蛸壺、蛸入道、蛸足配線、蛸の共食い、蛸配当、蛸の糞で頭に上がるなどの慣用句・諺がある。
3. CARP; 鯉、日本では鯉は勢いのよい魚の代表で、その姿から立身出世のたとえとして「鯉の滝上り」というような句ができたり、子供た

ちが鯉のように元気よく、勢いよい性格になることを念じてく5月5日の子供の日には鯉のぼりをあげる。また色彩豊かな鯉は高価な鑑賞魚として寺院や家庭の池に放たれる。武家時代には「鯉口を切る」や、料理の分野では「鯉濃」などという慣用語句も生まれた。英米では carp は泥底に棲むことや、その目立つ鱗から dirty, ugly fish というとらえ方が一般的である。よく話題にされることではあるが、日本のプロ野球チームのひとつである広島カープ(Hiroshima Carp)の名称にはたいいの英米人は驚くようである。英語の動詞として carp という語があるが、その意味は「(けなして) (人について) つまならしいこととでとがめだてしたり、あら捜しをする」というマイナスのイメージを帯びた語である。

If you carp, you keep complaining about things that are not important. All this carping and criticizing won't get us anywhere.

4. EEL; 鰻、日本では夏の土用の丑の日には暑気を回避するために、かば焼きなどにして珍重して食する風習がある。語句・成句としては数少ないが、「鰻の寝床」「鰻登り」などがある。英米では eel は snake を連想させることから食用にすることは稀である。

(as) slippery as an eel 言い逃れする、つかみどころのない

You'll have trouble getting a commitment out of him. He's slippery as an eel. 約束をとりつけるのは大変。言い逃れするから。

5. CLAM; 蛤、浜に見られる栗ということからハマグリという語が生じたとされる。アサリ・シジミと並んで日本人が最もよく食する貝類である。英語でも、これらの貝の学名は存在するが、日常生活で区別して言い表すことはない。英米人は日本人のように味噌汁や浜焼きで蛤を食べる風習はないが、蛤を刻んで clam chowder (スープの一種) として食することはある。英語では clam は貝がしっかりと口を結んでいることから、「無口な人」の意を持つ。

(as) happy as a clam (at high tide) 至極満足して
 go clamming 潮干狩りにいく
 clambake 海岸でのハマグリパーティ、騒々しい政治集会
 clam up 黙り込む; As soon as I mentioned the money, he
 clammed up.

6. LOBSTER; 伊勢海老; shrimp 小海老; prawn 車海老、海老は日本では小さい、腰が曲がっているなどのイメージが伴うが、伊勢海老などは鯛と共に結婚式の料理に長寿の象徴として供されるめでたい高級魚介類である。日本人同様に英米人も海老を食するが、shrimp [prawn] cocktail 小エビ [車海老] のカクテルにしたり、プロイユすることが多い。海老という語を含む日本語の表現としては、小さいというイメージでは「海老で鯛を釣る」という表現に観察されるが、この場合の海老は shrimp 小海老 prawn 車海老などの小海老である。また江戸時代の拷問一つである「海老責め」や、スポーツ関係では腰が海老のように曲がる様から「海老固め」「海老上がり」などの語句ができた。また、つまらないものが貴いものの中に交じっていることを「海老の鯛交じり」などと言ったりすることもある。いずれにせよ、日本は名だたる海老食文化国家である。英語には海老を使う表現はほとんどみあたらない。

(as) red as a lobster 顔を真っ赤にして
 go prawning = fish for prawns [shrimps] 海老を捕りに行く

III. 動物

1. DOG; 犬、日本語では「犬」は忠犬ハチ公や昔物語の「桃太郎」に登場してくる犬に代表されるように忠実・忠誠心のシンボルとして受け入れられている一方、犬死 [die in vain; die a dog's death]、警察の犬 (まわし者、番犬) [watchdog] 犬侍 [shameless / cowardly]

samurai]、負け犬 [loser]、などの語句に見られるように取るに足らないもの、つまらないものという色合いをも合わせ持っている。英語でも faithful dog / man's best friend [companion] のように人間の忠実な友であるという点では一致しているが、dog を含む慣用句は以下に列挙したように、ほとんどすべてがマイナスの連想を伴うものである。日英語共に人間の最も忠実なペットでありながら、慣用句・イディオムには好ましくない表現が多いことは皮肉なことである。

the dog days 夏の土用、暑い日々 = high summer (fig) a time
of tedium, apathy

a dead dog 何の役にも立たない人 (物)

a dirty dog ひどい野郎 / a shaggy dog story 荒唐無稽のほら話

a dog in the manger 意地悪な人 / be top dog 最高権力者となる

beg like a dog なりふり構わず頼む (beg = 犬がチンチンする)

die a dog's death [die like a dog] みじめな死に方をする

go to the dogs 墮落する; 落ちぶれる

lead a dog's life みじめな生活をする

mean as a junkyard dog 怒りっぽくて怖い

put on the dogs 見栄を張る / work like a dog 汗水たらして働く

throw ~ to the dogs ~を浪費する

dog-eared (頁の端が) 折れた

dog eat dog 同類間の (食うか食われるかの) 非情な闘い・競争

dog-eat-dog-world 弱肉強食の世の中

dog-paddle 犬かきで泳ぐ / a doggie bag 残りもの持ち帰り袋

sick as a dog 非常に体の具合が悪い

teach an old dog new tricks 頭の固い老人に新しい考えを教える

bark up the wrong tree 見当違いの人を非難する

Barking dogs seldom bite. 痩せ犬の遠吠え; 大言壮語する人は恐くない

Let sleeping dogs lie. さわらぬ神にたたりなし; 余計な面倒は起こす
な

It rains cats and dogs. 土砂降り

bitch あばずれ cf. SOB = son of a bitch 畜生

lead [live] a cat-and-dog life 犬猿の仲; 喧嘩ばかりして暮らす

dog-tired くたくたに疲れる (I'm dog-tired tonight.)

(as) sick as a dog [cat, toad, horse] 非常に具合の悪い

the underdog 競争で勝ち目のうすい者; 負け犬

like a dog with its tail between its legs しっぽを巻いて

Love me, love my dog. 坊主にくけりゃ袈裟まで憎い

put on the dog 格好をつける

Every dog has his day. 誰にも得意な時代がある

Every dog is a lion at home. 内弁慶

A dog will not howl if you beat him with a bone. 金で面を張る

2. CAT; 猫、日本語では猫が登場する表現としては「猫糞」「猫背」「猫撫で声」「猫に紙袋」「猫に小判 (cf) To cast pearls before swine.」「猫の手も借りたい (cf) be as busy as a bee.」「猫は3年の恩を3日で忘れる」「猫も杓子も (cf) every Tom, Dick and Henry」「猫被り」「猫の額」「猫に鯉節 (cf) To set the wolf to keep the sheep.」など非常に悪いイメージが伴う。人間の恩を裏切ったり、しなやかでおとなしいにも係わらず、裏面の性格を持つ動物としてとらえてる表現が目立つ。英語では日本語ほどでないが、以下に列挙したように、やはりあまり良いイメージの慣用語句はない。

catty (女が) 陰剣な

fight like cats and dogs 激しい喧嘩をする (cf) 犬猿の仲

see which way the cat jumps 形勢を見る; 日和見する

= wait for the cat to jump ひより見する

let the cat out of the bag うっかり秘密をもらす

like a cat on s hot tin roof そわそわして; いらいらして
 play a cat and mouth with もて遊ぶ; いいかげんにあしらう
 bell the cat 進んで難局にあたる
 enough to make a cat laugh とても滑稽な
 enough to make a cat speak (希) (酒) が実に素晴らしい
 put the cat among the pigeons [canaries] グループの中に騒ぎを
 起こすものを入れる

Betty is a cat. 猫のように意地悪で執念深い

A cat has nine lives. ネコには九生あり

Care kills the cat. 心配は身の毒

It rains cats and dogs. 土砂降り (黒猫は嵐を呼ぶ魔女の使い、犬
 は暴風の象徴)

3. COW; 牛。日本語には「牛」という1語しかない。四方が海に囲まれた国の食文化のため魚類名とその分類については、にしん(herring) vs カズノコ; 鮭 vs. スジコ or イクラや出世魚と呼ばれている一部の魚については、ボラ(striped mullet) = オボコ; スバシリ; イナ; ボラ; トド (からすみ) 「ちなみに、とどのつまりのトドとはボラ成魚のことである」; プリ(yellow tail) = ワカシ (ツバス); イナダ (ハマチ); ワラサ (メジロ); スズキ(sea bass; perch) = セイゴ; フッコ; スズキなどといったように詳細をきわめているのと同様に、英語には、牧畜・畜産業に関する語彙が豊富である。日本語では複合語にすべきところを英語ではそれぞれについて語彙を擁している。cow 「乳牛の雌」, ox 「労役・食用の去勢した雄」, bull 「去勢してない雄」, calf 「子牛」, cattle 「(複数扱いで集合的に家畜としての) 牛」また食肉としての牛肉は beef 「牛肉」 ---> sirloin; short loin; short ribs; rump; round; chuck; brisket; shank; plate; flank; porter house; filet mignon; T-boneというごとくに多種多様である。さらに調理の仕方についても rare; medium rare; medium; medium well-

done; welldone などと豊富にそろっている。

a cash cow 収入源 (cf. 金のなる木、ドル箱)

a sacred cow 侵してはならぬもの (ヒンズー教では牛は神聖な動物)

beef up 組織・法律などを強化する

beefy 筋骨たくましい; でっぷりした (しばしば鈍重を連想)

bull; John Bull 英国の愛称

a bull in a china shop 手のつけられない乱暴者; 無神経なやつ

like a bull at a gate 不器用に; 猛烈に

hit the bull's eye 的を射る; 成功する (アーチェリー・ダーツなどで)

a bull and boloney つまらぬ話 / bullbaiting 牛攻め

bulldoze[r] 人を脅迫する (ブルドーザー; 脅迫する人)

bullfight 闘牛 / bullfrog 食用ガエル / bullheaded 馬鹿で頑固な

a bull market 上がり相場 / bullnecked 牛のように首が太い

bull one's way through the crowd 人混みを力づくで押し分けて進む

bullpen 牛の囲い場; ブルペン; 留置所; プタ箱

bull session 自由討論 (会) / strong as an ox とても力持ち

take the bull by the horns 難題に敢然と立ち向かう

till the cows come home いつまでも (牛はのんびりしている)

4. HORSE; 馬、日本語では農耕馬としては貴重な家畜であったが「馬齢を重ねる」「馬車馬のように働く」「馬面」「鯨飲馬食」「馬耳東風」「どこの馬の骨か分からない」などの慣用句や語句に観察されるように労働、丈夫、大食い、馬鹿、素性の悪さなどのイメージが伴う。英語では競馬などのスポーツもあり、馬の同義語は多い。foul = 0歳の子馬、colt = 4-5歳の雄の子馬、filly = 4-5歳の雌の子馬、pony 小型の馬、gelding 去勢した馬、mare 雌馬、stallion 種馬、steed 軍馬、乗用馬などがある。農耕の場面以外で接する馬は英米人には speed と grace のイメージが伴うようである。

a horse face 馬面／ horse laugh 馬鹿笑い／ horse sense 一般常識
work like a horse 馬車馬のように働く／ a dark horse ダークホース／ strong as a horse タフな

like beating a dead horse 無駄な／ horse around ふざける

be so hungry one can eat a horse おなかのぺこぺこ;大食

straight from the horse's mouth 確かな筋から

look a gift horse in the mouth 贈物のアラを捜す

back the wrong horse 支持する相手を間違える

change horses in midstream 途中で変更する

get on one's high horse 傲慢な態度をとる

(that's) a horse of a different color 話は別だ

put the cart before the horse 順序が逆だ

You can lead a horse to water, but you can't make it drink.

本人にその気がなければどうしようもない

horse and horse 対等で／ play the horses 競馬で賭ける

horse-and-buggy 時代遅れの

5. PIG; 豚、英語には牛馬と同様に豚に関しても hog (成長し去勢された雄豚); boar (去勢していない雄豚); sow (雌豚) (cf. gilt 子を産んだ事のない雌豚); swine (古文;豚)など幅広い語彙がある。英語では豚は selfish, obstinateそして dirtyなイメージが伴う。

You dirty pig!= cop／ Pigs might fly. まさか!;珍しい

piggy ブーちゃん、といって親しまれる。

eat like a hog 豚のようにガツガツ食う = as greedy as a pig

This car is a gas hog. ガソリンをよくくう

a hog in armor 着映えしない人、ぶかっこうな人

(as) drunk as a sow 泥酔して

a pig in the middle 板ばさみになった人

bleed like a pig たくさん血を流す

bring [drive] one's pigs to a fine [pretty, the wrong] market

思惑が外れる

buy a pig in a poke 物をよく調べもせずを買う

make a pig's ear (out) of ~をしくじる

sweat like a pig 冷汗をものすごくかく

6. SHEEP; 羊、山羊と異なり羊は日本語にはあまり馴染んでいない語であるが、羊は従順でおとなしいというイメージであろう。西洋では1万年以上も前から家畜として飼育され、聖書には頻繁に登場する動物である。聖書では羊は善(人)とされ、温厚、純潔、無邪気のシンボルとなっている。キリスト教世界では shepherd は牧師, sheep は信者のシンボルである。Christ is our shepherd and we are his flock (of sheep). sheep は雌雄区別しない語だが、雌雄を言う場合には ram 雄, ewe 雌, 子羊は lamb を使う。食肉としては mutton 羊肉, lamb 子羊の肉を使う。

a black sheep (家族・仲間の)嫌われ者、厄介者

cf. There's a black sheep in every flock.

a stray [lost; wandering] sheep 正道を一時踏み外した人

a wolf in sheep's clothing 偽善者 / innocent as a lamb 無邪気

follow like sheep 盲従する; 他人に影響されやすい

make [cast] sheep's eyes at ~に色目をつかう

separate the sheep from the goats 善人と悪人を区別する

Why don't you try counting sheep? 眠るときに数える

As good be hanged for an old sheep as a young lamb どうせならでかいことで罰せられるほうがいい

the lamb of God = the Good Shepherd = Jesus Christ

like a lamb / as mild (gentle) as a lamb [Moses] おとなしい

in two shakes of a lamb's tail すぐに

sheepish 照れた; おどおどした

7. GOAT; 山羊のイメージは日本語では温和でおとなしい性格であろう。「山羊ひげ」から連想するのは善人であろう。西洋では好色漢や悪魔の姿に雄山羊の姿をだぶらす悪人としてのイメージが強い。羊がプラスのイメージを持つとすると山羊はむしろマイナスのイメージである。雌雄を言うときは a he-goat, a she-goatを使う。子山羊は kidである。

act [play] the (giddy) goats おどける;馬鹿なまねをする

look goats and monkeys 助平づらをする

scapegoat 犠牲;身代りに罪を被る人

8. MONKEY; 猿、日本語では「猿真似」「猿芝居」木登り上手の「猿も木から落ちる」などの表現から知恵が足りない赤尻の動物とのイメージが強い。英語では monkey は、いたずら好きの、毛深い、興奮性の動物とのイメージがある。ape は gorilla, chimpanzee, baboon, orang-utan などのように通例尾のない類人猿を言う。

monkey around ふざける;

monkey business 不正行為;ふざけること;ごまかし;いんちき

monkey with いじる

make a monkey (out) of (人) を笑いものにする

Monkey see, mokey do. サルのものまね

hairy as as ape 毛深い

ape someone 物真似をする

go ape over 熱狂する = go banana = go crazy (get excited)

play the ape 人の真似をしてふざける

9. MOUSE/RAT; 鼠、日本語の表現では「ねずみ算」「ねずみ講」などは多産・多量のイメージ、また「こまネズミ」は働き者、そして「濡れネズミ」は全身びしょ濡れ、「ネズミ捕り」は現代では警察の速度違反取締りなどがあるが、鼠はペストなどの病原菌を運ぶ汚い動物とのイメージが一般的である。英語では ratは日本語と同様に「卑

劣」「裏切り」「ベスト」など悪いイメージが伴うが、mouse は子供たちのアイドルにもなっているMickey Mouse から判断できるように良いイメージもある。また mouse には清貧のイメージもある。

(as) poor as a church mouse 非常に貧しい、赤貧
quiet as a mouse おとなしい

While the cat's away, the mice will play. 鬼のいぬまの洗濯; 臆病者

mousy (女性の外見が) ぱっとしない

rat on 密告する; 告げ口する

smell a rat 何か怪しい

You rat. この裏切り者め

a rat race 世俗の愚かな競争

like [(as) wet as] a drowned rat 濡れネズミになって

The mountain labors and brings forth a (ridiculous) mouse
大山鳴動してねずみ一匹

10. Other Animals; 類似のイメージのもの

- a. FOX; 日本では狐狸は人を騙す動物であるとされているが、そのイメージは「ずるい、こうかつな」である。英語でも基本的には fox は a sly animal とのイメージが強い。fox の形容詞 foxy には sexy 「(肉体的に) 魅力的な」の意味あいがあるが、日本語でも「狐の嫁入り」などのイメージから、どちらかというとな女性らしさがつきまとう。雌雄を区別するときは雌狐を vixen、また幼ない狐は cub という。

a fox's sleep 無関心を装う

(as) sly [cunning] as a fox 狐のようにずるい

a fox in a lamb's skin 偽善者

play the fox ずるをきめこむ; 人を騙す

an old fox ずる賢い男 (cf.) 狸おやじ、raccoon dog

outfox 一枚上手をいく; (抜け目なさで) 狐にも勝る

to be foxed 騙される; 出し抜かれる

to shoot someone else's fox 誰か他の人の敵を討つ

a foxy lady = foxy = sexy セクシーな女性

an old fox ろうかいな人

be badly foxed ひどく変色している

be possessed by a fox 狐につまれる

the fox and the grapes 負け惜しみ (イソップ寓話より)

a fox of a man 狐のようにずるい男

- b. BEAR; 熊、日本語では熊は獠猛ではあるが、どこかひょうきんなどころもある動物とのイメージがある。金太郎と熊の相撲とか胃薬となる「熊の胆」とか、北海道では熊を「山親父」と讃えたり、日常的には「熊手」など滑稽さをさそうところがある。英語では bear は「無作法」「不機嫌」「粗暴」のイメージが強い。ちなみに旧ソ連邦 (the Union of Soviet Socialist Republics) のニック・ネームは bear である。

play the bear 無作法に振舞う

go like a bear to the stake 嫌な仕事にしぶしぶとりかかる

as surly [rude, savage] as a bear ひどく不機嫌な (粗野な)

like a bear with a sore head 極めて不機嫌な

(as) cross as a bear 極めて不機嫌な

skin the bear at once 要点にふれる

take the bear by the tooth 無用な危険をおかす

bear hug 強い抱きしめ / be on the bear side 売り方にたつ

sell the skin before one has killed the bear (cf.) count one's chickens before they are hatched 捕らぬ狸の皮算用をする

- c. ELEPHANT; 象、欧米では象は記憶力がよく、賢明な動物とされ、米国共和党の象徴にもなっている。象が鳴くのを trumpet という動詞で表現するのは言いて妙である。雄・雌・子象はそれぞれ bull /

cow elephant; an elephant calf である。形容詞もあり elephantine で「(けなして、おどけて) 象のような、大きくてのっさりした、おおげさな」という意味となる。また象の鼻は木の幹の如く太いので trunk と表現し、普通の動物の nose と区別している。

have a memory like an elephant 記憶力がよい

= Elephants never forget.

dance like an elephant 不格好なダンスをする

draw the elephant 困難な仕事に成功する

see the elephant 世間を見る、経験を積む、(大都会の) 名所を見物する

see the pink elephants (象がピンクに見えるほど) 酔っている、
(麻薬等を使用して) 幻覚を見る

a white elephant 金のいる厄介な物・贈物、持て余し物、無用長物

a white-elephant sale 不要品持ち寄りセール

- d. TIGER; 虎、日本では「残忍」「危険」「酔っぱらい」などの悪いイメージが先行するが、「虎の子」「虎の巻」など貴重な物品を指すこともある。欧米でも ferocity, self-willed などのイメージで日本とほぼ同様である。

(He is) a tiger. 大変な精力家だ (特に lamb と対比的に用いられる)

as cruel as a tiger 虎のように残忍な

paper tiger 張りこの虎; かいらい

ride a tiger 不安定 (危険) な生活をする

have a tiger by the tail 予想外の困難に陥る

work like a tigar 猛烈に働く

- e. LION; ライオン、洋の東西を問わず百獣の王である。そのイメージは「勇敢」である。

the lion's share 一番いい取り分

hungry as a lion 腹がぺこぺこ

roar like a lion どなる;わめく

as brave as a lion ライオンのように勇敢な

- f. WOLF; 狼、日本では絶滅した狼のイメージはやはり「怖い・危険」であるが、童話「赤ずきんちゃん」の影響からか、善良そうに見せかけているが、襲いかかる隙を狙っている危険な人物とのイメージも定着した。英語でも cruel, greedy, fierce といったイメージが強い動物である。

the big bad wolf 怖い人・物、脅かす人・物

a lone wolf 一人で生きるのを好む人、独立独歩の人

(as) greedy as a wolf ひどく欲の深い

hungry as a wolf 飢えた

wolf in sheep's clothing [skin] 羊の衣を着た狼

cry wolf 人騒がせなことを言う、有りもしない危険を叫ぶ

cry wolf too often 嘘が多くて人から信用されない

have a wolf in the stomach ひどくひもじくなる

have a wolf by the ears 苦境に立つ、絶対絶命となる

keep the wolf from the door 飢えをしのぐ

throw ~ to the wolves 人を平気で犠牲(身代り)にする

- g. CROCODILE; 鰐、アフリカと北・南アメリカだけに棲む鰐は日本には動物園を除いてはお目にかかれない爬虫類であるので、日本語で鰐という語を含むものとしては「鰐口」「鰐皮」「鰐足」「鰐鮫」など、少数しかない。これらの語彙のイメージとしてはやはりその大きな口であろう。英語には、アフリカに棲む大型の crocodile とアメリカ大陸に棲むやや小型の alligator がいる。言い伝えでは鰐は涙を流して獲物をおびき寄せると言われており、そこから鰐の空涙という句ができたとされる。英語でのイメージは hypocrisy だそうである。

crocodile tears そら涙

- h. FROG; 蛙、日本語で「蛙」といえば「蛙泳ぎ cf. breast stroke」

「蛙跳 cf. leapfrog」など、特異な動作とゲロゲロというしわがれた声であろう。また「井の中の蛙」「蛇ににらまれた蛙」「蛙の子は蛙」「蛙の面に小便」などと言った蛙の習性や特性を表す成句も多く、人々に親しまれた存在である。英語ではこのような特定の成句はほとんど見あたらないが、その理由は田の畦に親しむ農耕文化と牧畜文化の相違かもしれない。ただし、非常に特徴的な蛙の声を表す成句はある。

have a frog in one's throat 声がかすれる

croak like a frog 蛙のように鳴く (NB. croakは蛙・鳥の鳴き声を表す動詞であるが、元来は「殺す」の意の他動詞)

- i. SNAKE/SERPENT; 蛇、日本語では、この爬虫類は「蛇の道は蛇」「藪蛇」「蛇に見込まれた蛙」などの表現に観察されるように、「危険」なイメージがつきまとう。またその特殊な形態から「蛇足」「蛇口」「蛇の目」「蛇行」「竜頭蛇尾」「長蛇の列」など日常的な語彙ともなっている。また「蛇」は古語では「うわばみ」とも言い、「大酒飲み、酒豪」の代名詞にもなっている。英語では snake の文語は serpentine であるが、これは聖書の創世記や黙示録にも登場する動物で「陰険で悪賢い」悪魔・サタンの使いというイメージが定着している。陰険な人、悪意のある人の代名詞でもある。また、小型動物などの獲物をらくらくと締め殺して飲み込んでしまうような大蛇を特に constrictor とも言う。

a snake in the grass 思わぬ落とし穴; 目には見えない危険

be above snakes 生きている

cherish [warm] a snake in one's bosom 飼主主手に手をかまれる; 恩を仇で返される

see snakes/ have snakes in one's boots アル中にかかっている

snake one's way through ～を縫うように進む

- j. HARE/RABBIT; 兎、日本では兎のイメージは「目が赤く」「長い耳」をしたかわいい小動物であろう。「月で兎さんが餅つきをしてい

る」なども日本のどの子供も聞いたことである。英語では rabbit には「多産」「幸運」「敏速」「臆病者」のイメージがある。hare は rabbit より大型で穴居性がない。こちらは「間抜け」のイメージがある。

as mad as a (March) hare (or a hatter) (交尾期の3月の兔の
ように) 気違いじみた; 気が立っ
ている

(as) timid as a (March) hare 気の小さい

hare and hounds 兎ごっこ (子供の遊び)

hold [run] with the hare and run [hunt] with the hounds

= run with hare and hounds その場しだいであちこち味方する内股
膏藥をやる

start a hare (議論で) わき道にそれる

breed like rabbits 兎のようにたくさん子供を産む

run like a rabbit 一目散に逃げる

produce a rabbit out of a hat 苦境に妙案を思いつく (手品から)

IV. 鳥

1. DOVE/PIGEON; 鳩; 日英語とも平和のシンボルである。日本語では「ハト派」「ハト胸」「ハトが豆鉄砲を食らったような顔」「伝書バトのように帰宅する」など鳩は穏健でやさしいとのイメージが強い。英語では dove と pigeon ではイメージがかなり異なり、「平和」「愛情」「純潔」のシンボルとなるのは dove の方である。pigeon の方はやや大型で、あまり清潔なイメージはない。dove に対象される鳥は攻撃的な hawk である。

gentle as a dove おとなしい / pigeon-livered 気の弱い

a pigeon 騙されやすい / pigeon-hearted 従順な

pigeonhole 分類整理する; 型にはめる

pigeon-toed 内股の／ pigeon breast鳩胸／ pigeon-chested 鳩胸の
dove-eyed 柔和な目をした／ dovish ハト派の

2. DUCK; 鴨・あひる; 日本語では「カモがネギをしょって来る」などから鴨やアヒルは組みしやすいというイメージがある。英語では Walt Disney の Donald Duck の姿からも明らかなように、その身振りや歩き方に「滑稽」のイメージがある。その独特の歩き方と鳴き方をそれぞれ waddle, quackという動詞で表現する。雌雄区別している場合には雄は drake雌は duck、またアヒルを a domestic duck、野鴨・マガモを a wild duckを使う。

a lame duck 任期切れ待ちの大統領／ a sitting duck 格好の目標

an ugly duckling 醜いアヒルの子 (Andersen's fairy tale)

a fine day for ducks 雨天

break one's duck (スポーツで) 最初の得点をあげる

duck(s) and drake(s) (小石で水面をすべらす) 水切り遊び

in two shakes of a duck's tail たちまちに

like a duck in a thunderstorm 目を白黒させて; 啞然として

play duck(s) and drake(s) with (金などを) 湯水のように使う

like water (rolling) off a duck's back 馬耳東風; 平然とした

an ugly ducking 子供の時は醜い (将来性がないが) と思われがちであるが後に美しく (尊敬されるように) なる人; 醜いアヒルの子

3. TURKEY; 七面鳥; 日本語では、その名は肉いぼの色が時々変化することからついたとされている。欧米では鶏について重要な家禽であり、North America 原産でありながら turkey と呼ばれるのはトルコ人によって持ち込まれたホロホロ鳥と混同された結果、つけられた名称であるといわれている。

a turkey 馬鹿、間抜け／ talk turkey 率直に話す

cold turkey 麻薬患者が禁断症状で示す時の特有の鳥肌

(go) cold turkey きっぱりとやめる (禁断症状になると鳥肌になるこ

とから「麻薬・酒・煙草などをきっぱり断つことから」

4. PEACOCK; 孔雀; 日英語ともに「高慢・気どり」「派手・贅沢」のイメージがある。雌は peahen である。一般に孔雀を peafowl と言うこともある。

as proud as a peacock 孔雀のように誇らしげに

strut like a peacock 気どって歩く

as gaudy as a peacock けばけばしい

5. GOOSE; がちょう, 雁; 欧米では家禽類の中でも食用にされてきた代表格の鳥であるので、この語を含む慣用句・成句は多い。きわだったイメージはないが goose は「うす馬鹿」のイメージを持つ。雌雄を区別して表現する場合は雄には gander が雌には goose が用いられる。
call a goose a swan 黒を白と言いくるめる

goose bumps 鳥肌 / a wild goose chase 無駄足

cannot say boo [bo] to a goose 非常に臆病である

kill the goose that lays the golden eggs 無思慮な行為により財を失う; 目先の利益のために将来の利益をだいにしにする

turn goose into swans 買いかぶる; 手前みそを並べる

pluck a person's goose (for) him 高慢な鼻をへし折る

shoe the goose くだらぬことで時間を無駄にする

cook someone's goose ~をだめにする; ~をくじく

The goose hangs [honks] high. すべて順調だ

What's good for the goose is good for the gander. 一人に当てはまればみんなに当てはまる

The old woman is picking her goose. 雪がしきりに降っている

All his geese are swans. 何事も実際より過大に評価する

6. EAGLE; 鷲; 日本語では鷲は「鷲鼻」「鷲づかみ」などの語句から「鼻が鋭く曲がっている恐い大きな鳥」というイメージがある。英語ではむしろ堂々とした姿や力強さというイメージが先行している。米

国の象徴は bald eagle (白頭鷲) である。米国では「力強さ・誇り」の象徴なのである。

have an eagle eye 目が利く

spread-eagle 大きい (翼を広げた鷲のイメージ)

7. SWALLOW; 燕; 日本では夏の到来を告げる鳥であり、「燕尾服」「燕返し」「特急ツバメ」からそのイメージは「速さ」「スマートさ」であろう。英語にも夏の到来を予告するような成句はある。やはり、そのイメージは swiftness, summer であろう。

swallow-tailed coat 燕尾服

One swallow does not make a summer. 物事の一部を見て、その全体を判断してはいけない。

A swallow, like false friends, fly away upon the approach of winter. 燕は偽りの友の如く冬が近づくと飛び去る

8. CUCKOO; カッコウ; swallow が夏の到来を告げる鳥とすると cuckoo は春の前触れ (harbinger of spring) を告げる鳥である。

the cuckoo in the nest 平和な親子関係を乱す侵入者

9. LARK; 雲雀; 春のうららかなさを象徴するような鳥である。青空をさえぎりながら舞っている健康的なイメージは日英語とも共通である。

as gay as a lark ヒバリのようににぎやかな

happy as a lark ヒバリのように幸福な

rise [be up, get up] with the lark 早起きする

If the sky falls, we shall catch larks. 取り越し苦労は無用だ

What a lark (it is to~)! (~することは) なんと愉快なんだろう

[参考文献]

1. 『成語林』（故事ことわざ慣用句）尾上兼英監修 旺文社 1992
2. 『故事ことわざの辞典』 尚学図書編集 小学館 1986
3. 『口語英語の比喩表現』 ヘレン・ポスト, 斎藤宏 研究社出版 1977
4. 『英語イディオム事典』 多田幸蔵 大修館書店 1984
5. 『英語的思考』 澤登春仁 講談社現代新書 1990
6. 『英語発想 IMAGE 辞典』 フランシス.J.クティラ、羽鳥博愛
朝日出版社 1984
7. *Oxford Dictionary of English Idioms*, A.P.Cowie, R Mackin &
I.R. McCaig, Oxford [Volume 1 & 2] 1985
8. *Dictionary of English Colloquial Idioms*, F.T.Wood & R.J.Hill,
Papermac 1990
9. *The Penguin Dictionary of English Idioms*, Daphne M.Gulland
and David G.Hinds-Howell, A Penguin Book, 1986